

第6第 綿密な調整で進める 体にやさしい 麻酔方法

Dr. 村田の
HGS!
(日帰り・外科・手術)



麻酔は年齢、男女、体格など、一人一人に合わせた方法と量の加減で行われます。種類は3種類。マスクによる全身麻酔、おなか周りのための局所麻酔、また、個人差で痛みに敏感な方や男性には硬膜外麻酔（短時間に少し深く効かせる麻酔）を追加することもあります。特に高齢の方には、体の負担が小さくなるように全身麻酔と局所麻酔の量のバランスを綿密に調整します。日帰り外科手術の全身麻酔は、オフにして名前を呼べばすぐに答えられる程の浅いものなので、手術後にスムーズに目が

覚めます。麻酔法は手術前の診察と体調問診で決定しますので、緊張がとれないようでも心配はいりません。表情などからも充分考慮しますので、気持ちもやわらいでもらえるでしょう。傷口を閉じる前に麻酔が覚めるタイミングをもっていき、その時「おなかに力をいれてください」「咳ばらいをしてください」と、お呼びかけしますので、頑張ってやってみてください。シートがきちんとフィットして脱腸を抑えているかを確認でき、再発予防になります。そして麻酔薬を酸素に切り替えて縫合し、終了です。間もなく痛みのない状態で目が覚め、痛み止めを飲んで1時間から2時間、回復室で休んでいただきます。看護師と一緒にふらふらしないでトイレに行ける状態を確認できればもうお帰りいただけます。

そけいヘルニア Q&A

Q 手術創（縫合された傷）の長さは何センチくらいですか。

A 昔は6 cm位が平均でしたが、シートが使えるようになってからは男性で2 cm～3 cm、女性が1,5 cm～2 cmほどです。体格が大きい方は、男女それぞれ、プラス1 cm位になります。

Q 家に帰ってからは、あまり動かずに静かに過ごしていればいいのですか。

A 日帰り外科手術は、手術したことを気にせずに日常生活ができる高度な手術です。術後の痛みは3日程でほとんどおさまるので、力仕事以外は普通に動いていただいて大丈夫です。辛い痛みを感じなければあえて慎重になる必要はありません。

～お知らせ～

平成29年1月から祝日も日帰り外科手術を行います。

休日は学会に合わせた不定休になります。電話、ホームページでご確認をお願い致します。



「手術前の診察の流れは、血圧、体調問診、術衣に着替えて貴金属類ははずし、心電図、サチュレーション（指先で酸素飽和度を計る）、点滴（静脈麻酔と鎮静剤）となります。何か不安なことなどがあれば、その時に伺います。手術後は1週間分の痛み止め、胃薬を処方しますので、十分に間に合います」